

NPO 法人環境市民 理事会 第 10 期 第 4 回（通算 96 回）理事会 議事録

(a) 日時及び場所

日時：2020 年 4 月 21 日（火）13:00-15:10

場所：環境市民事務局

(b) 理事の総数

14 人（うち定足数 10 人）

(c) 出席した理事の氏名 太田航平、加藤亮太、下村委津子、杵本育生、松田直子、以上 5 人。

（オンライン（Zoom）による参加） 石崎雄一郎、神田浩史、瀬口亮子、早瀬昇、原田紀久子、松下和夫、以上 6 人。

合計 11 名となり、同定款第 38 条の規定により定足数（理事総数の 2/3）を満たし、開会した。

(d) 議長 下村委津子を指名

(e) 議事録署名人 太田航平、松田直子

(f) 議事録作成者 風岡宗人

■情報共有事項

各事業の担当者から下記の報告があった。

○事務局運営について

- コロナ拡大のなか感染拡大防止に努めながら事務所は毎日開いている。できるだけ短縮できるよう努めたい。決算の方は未収分を含まず 3 万円弱の赤字となっている。
- 決算案および事業報告案は次回理事会で提案する。

○企業のエシカル通信簿について

- 第 4 回エシカル通信簿は終了しプレスリリースを済ませている。新聞から取材を受け、掲載予定。報告会の開催は延期となり、開催時期は未定。大阪大学が消費者向けのソフト開発をしてくれたり、楽天が注目してくれたりしている。

○環境首都創造

- 昨年度は終了。今年度は助成金が増額された。気候変動適応策の調査は下村と風岡が主に担当した。
- 環境自治体会議と環境首都創造ネットワークの統合をすすめている。秋には東京で設立記念大会を開催したい。会員を増やしていきたい。NPO も会員になれるので入会を検討いただきたい。

○2R セミナー

- 松田が主担当し、2 月にセミナーを開催し、報告書を提出した。

○あどぼの学校

- 神田、加藤で担当。市議員との懇談を実施。今年度も引き続き行う。全国のアドボカシーの動きを連携させられないかと考えている。

○寄付

- 弁護士さんを通じて初めて遺贈寄付を受けることになった。

=====

■検討決定事項

1 中期計画の検討

枚本より資料（中期計画たたき台）の説明を受けて協議を行った。他のメンバーも改善意見を出すとともに、出された意見を枚本が修正する。

（出された意見）

- ビジョンについては変更なし。意見なし
- 理念については一部表現を変更。意見なし
- ミッションについては下記の意見が出された。
 - ◇ ②人権の視点からブルーウォッシュ、SDGs ウォッシュも加える。
 - ◇ ⑤先進国、発展途上国という関係は過去のもので、あらゆる国で格差が広がっている→最初に先進国、途上国問わず協働をすすめる、という記載を検討する。
 - ◇ （原田）⑤の具体的活動はなにか？→（枚本）中国、韓国等のNGO等との情報交流。グローバル版エシカル通信簿につなげられたらよい。
 - ◇ 5つのミッションをつくれれば、活動が幅広くなってきた。ミッションを統合する、あるいは対応するプロジェクトがないミッションがあってもよいのか？→（早瀬）団体によって様々。1つのプロジェクトが複数のミッションの達成につながるという形もありうる。
 - ◇ （下村）中期計画を達成したといえるには指標が必要では？→（枚本）数値化すると失敗しがち。社会の変化を評価する必要がある→（下村・原田）指標がないと5年後に活動が進んだのかわからないのでは？→（下村）以前は質的な評価はしたことがある。→（枚本）社会の変化は様々な要因が組み合わせて起こるため評価が難しい。→（加藤）社会の変化とそこへの環境市民の寄与の関係を測らなければならないので難しい。→（早瀬）厳密な意味で社会的インパクトを測ることは難しい。→（加藤）環境市民は時代のトレンドをつくってきた団体なので、5年後にトレンドになっているかどうかを指標にすることもできる。→（枚本）エシカル消費も5年前にはなかったが教科書に取り上げられるまでに

なっている。→（加藤）メディア掲載数も指標になりうる。→落ち着いて議論し、評価指標も検討していく。

☆ （下村）⑥はもっとブレイクダウンして考えたほうがいいのではないか。

2 総会の開催形式

枚本から新型コロナウイルスの関係で実際に開催できるかどうか分からない状況のため、どのような開催形式が考えられるか検討要請があり、協議を行った。協議の結果、多人数が参加する形にせず、理事を中心に実際に集まり開催、補助的に書面表決とインターネットを併用することとする。リアル開催への傍聴者はなしとする。

（出された意見）

- オンライン開催を主にした場合、全会員が参加できることが条件。
- 書面表決、委任状と組み合わせればよい。
- リアル開催にする場合、会場設備として条件の良いネット環境が必要になる。
- 事務局の手間を考えれば、zoom 開催を基本とすればいいのではないか。
- 全会員が zoom 使えるという環境にはないので、補助的な手段にしかなりえない。
- リアルもオンラインも併用するという形がよいか。
- Zoom を使うなら事前テストが不可欠。
- 基本は少人数によるリアル、補助として zoom、書面表決を組み合わせる。
- Zoom は脆弱性があるので、参加を嫌がる人がいるかも知れない。
- できるだけ簡便にできる方法にすべき。

3 オンライン会議の手段の導入

枚本から理事会、打合せ等の内部会議を含めオンラインでの会議を可能にするために、環境市民として zoom の有料会員になることの是非について提案があり、協議の結果、同意を得た。

次回理事会

5月18日（月）13：00～15：00

主な議題

総会付議事項の検討と決定

署名欄

議長_____

議事録署名人_____

議事録署名人_____